

第3回 テーマ研修

研修テーマ

学習者主体の授業による自ら学ぶ児童の育成
～子供の事実を基にした省察を通して～

運営テーマ

指導観・研修観の転換をととした、
同僚性・ウェルビーイングを高める校内研修の在り方

【日 時】 令和8年6月2日(火) 16:00～16:45

【場 所】 6年1組教室

【内 容】

- | | |
|----------------------|------------------|
| I 1授業の手立てについて(豊田) | 16:00～16:05 (5) |
| II 児童の姿をもとにした話合い(橋口) | 16:05～16:30 (25) |
| III 振り返り(個人のゴールの記入) | 16:30～16:40(10) |
| IV 校長指導 | 16:40～16:45 (5) |

【準備する物】

- ・ タブレット

※ シースマイルでも資料を配布します。

※ 紙媒体が必要な方は各自で印刷してください。

- ・ 筆記用具
- ・ これまでの研修資料

みんなで 学びを進める 大切なルール

- ① 互いの価値観や経験、思いを聞き合う。
共感的に聞きながら、印象に残った言葉を伝え、疑問に思ったことは相手に「問い」として返す。
- ② 互いの「違い」を楽しむ
相手の意見を否定したり、相手の思いに「べき」論で返したりせず、違いがあることがあることを当然として、違いの中身を楽しみながら協議する。
→自分と違う視点を知ることは、自分の学びにつながる。
- ③ サポートできることを大切にする。
自分の学びを進めるだけでなく、共に学びを創る一員として、自分ができるサポートを見つけながら協議する。

I 児童の姿をもとにした話合い（5月19日（火）5校時 3年1組 算数 授業者：豊田）

（I） 参観の仕方

- ・ 担当の児童を見る。
- ・ 参観シートに「なぜ～できたのか」「なぜ～できなかったのか」という事実、「どういうタイミング・内容・条件でできた、できなかったのか」事実を記入する。

【主体的な姿の例】

問題発見力	当事者意識をもって問いを見いだす子供
自己調整力	学びの見通しを持ち、自ら学びの方法を選択・決定し、自らの学びを調整しながら実行できる子供
協働する力 関係調整力	分からないところやできないところは、他者と協力し合い解決しようとする子供 対話を通して対立やジレンマを乗り越えようとする子供
省察力	分からなかった点やできなかった点を見直し、次に生かそうとする子供
自尊心	自分の「伸び」を実感し、自分のよいところを認め、次の学習につなげる子供
粘り強さ	問いに主体的に、粘り強く学び続けようとする子供

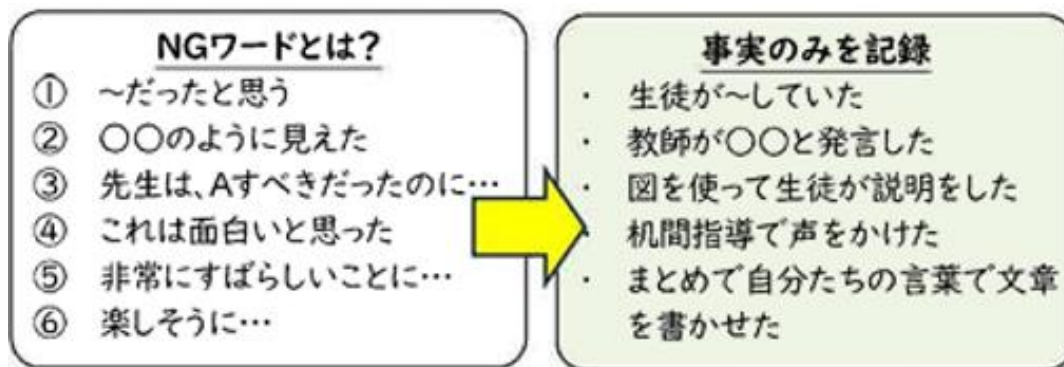
※ 授業をすべて見られなくても話合いができるように、タブレット等で録画したものを準備する。また、話合い中に児童の事実を見るための手掛かりとする。

※ 各グループで進行役と記録者を決める。記録者が発表する。

(2) 授業研究～児童の姿をもとにした話し合い～

Ⅰ 授業者のねがいや意図を簡単に話す。(2分)

2 授業参観時の子供の事実を共有し、話し合う。(15分)



ア どんな姿が見られたか、導入・展開・終末で変化があったのか、つぶやきや小さな体の動きなどを共有し、「子供が授業の中で何を経験しているか」ととらえる。

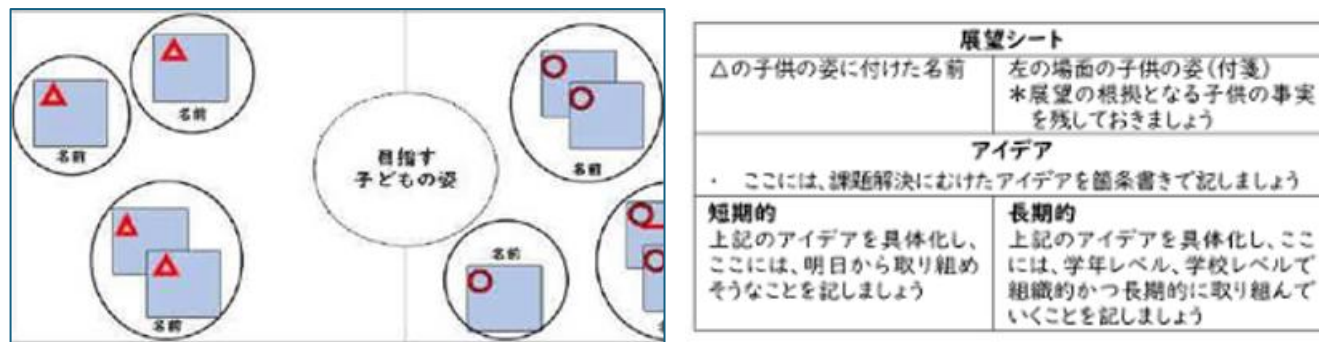
イ 教員が、お互いの見取りを交流し、子供の事実を明らかにしていく。

ウ 子供の事実を観察し、分析をしたり評価をしたりすることで、これまで気付かなかった授業の構造や問題について考える。

エ 学習者が主体的に学びに向かっていたか、事実をもとに意見交流する。

＊ なぜ～できたのか？できなかったのか？という「タイミング・内容・条件」でできたのか？できなかったのか？という事実をたくさん見つけていく。

2 観察した事実を、目指す姿に迫れているもの(○)、そうでないもの(△)に分類し、グルーピングする。



3 子供の姿の分析から展望を導く。

- (1) △をつけたグループから1つ抽出し、なぜそうなったのかを**子供の目線で解釈**し、それを解決するためのアイデアを出し合う。それらをもとに、短期的・長期的に取り組めそうなことを決める。
- (2) 各グループの展望を共有する。
- (3) 共有した展望から、全体で取り組むことや個人で取り組むことを決め、振り返る。

Ⅱ 児童の姿をもとにした話し合い (6月 2日(火)5校時 6年1組 算数 授業者:橋口)

Ⅲ 振り返り・個人のゴールの記入

Ⅳ 校長指導